

# 各種素材や凹凸面 自由に絵柄を転写

大木工芸

大木工芸(滋賀県大津市)はアスファルト、コンクリート、金属、布地など、凹凸があっても自由に絵柄を転写できる「常温転写トランスアート」(図柄模様常温転写)を開発。常温転写に関する世界9カ国、国内4件の特許を取得済み。

普及を図るため全国64のフランチャイズ組織(人口500万人を1地区)を展開中で、現在14社が加盟している。

用途は道路、駐車場、建築、室内装飾、塗装、木工、高速道路(防音壁の下)、看板などいかにしても絵柄が転写できる。自然木柄や天然石柄を使って、高



常温転写で路面アート

たが熱転写方式で、生産は工場内に限られていた。大木社長は屋外での用途に注目した。

30年以上の歳月をかけて、無機顔料と特殊な樹脂を使った常温転写技術を開発した。転写用の特殊なアクリル樹脂がカギを握っている。接着剤の状態から約2時間で接着剤が変わる。これで工期の大幅な短縮化に成功した。

施工は転写用樹脂を塗った路面などに、印刷したシートを貼り付けて転写する。樹脂が固まった時点でシートを取ると、インクだけが剥離し、樹脂の上に画像がきれいに転写される。

最後に表面をコーティングで仕上げ、滑り止め効果と耐久性を持たす。施工は10

分程度で済む。スピードアップすることで価格も抑えることができた。マイナス30℃でも硬化する。また画像が摩耗しても再度施工できる。100℃〜マイナス30℃の過酷な温度にも耐える。

駐車場や道路、建築物のアスファルトやコンクリート面などに写真、絵画、イラストを転写する路面アートシステムとして普及してきた。どんな素材でも、どんな絵・図柄でも転写が可能。

開発は産官学共同研究で行った。龍谷大瀬の合成高分子の権威・竹本喜一元教授の指導を得、更に竹本教授の教え子の勤務先である大手化学メーカーが協力して完成した。

速道路の壁面や橋脚、防波堤などの景観に心とらぐ色と絵柄を与えることができ。低温硬化性、高耐久性、耐薬品性、耐摩耗性、耐スリップ性など数々の特長を兼ね備えている。

昭和45年に大木武彦社長は会社を興し、アートパネル製造や美術館関係の仕事を始め。アートパネルというのは、有名な絵の複製や記念